

大学院「サステナビリティ学教育プログラム」において、タイ王国にて国際実践教育演習を実施しました。(2014年9月1日～9日)

タイ・プーケット島のマイカオ村において「国際実践教育演習」(2単位)のフィールドワークを2014年9月1日(日)から9日(月)までの9日間実施しました。

この演習では、学内の大学院4研究科すべてから参加学生を募りました。本学からは12名の大学院生/学部生が参加し、タイ側のプーケット・ラチャパット大学(PKRU)の学部生17名やマイカオ村の村人と共に調査を進めました。PKRUとは、2013年に全学の学術交流協定に格上げされ、PKRU全体でも本演習が単位化されるなど連携が強化されています。

観光地としてのプーケットのイメージとは違い、水牛が闊歩するのどかな風景の広がるマイカオ村にてホームステイをしながら、課題に取り組みました。現地では、専門の異なる学生がそれぞれ「廃棄物処理」、「エコ・ツーリズム」、「健康促進」の3班に分かれ、村に見え隠れする諸問題について、村人と現地の学生を交えて議論し演習を進めました。2009年より始まった本演習も今年で6年目となり、村人との関係も深まり、演習内容も課題や現状を評価するだけでなく、村で実際にできる実践活動へと範囲が広がっています。

例えば、「廃棄物処理」班は村人も出演するゴミ分別のプロモーションビデオの作成、「エコ・ツーリズム」班はバードウォッチングやサンドスパなど実際のツアーコースの提案、「健康促進」班は小学校を訪問してのエクササイズの講習と実践などを行いました。

また、ホームステイでは、村人の家にPKRUの学生と共に3泊し、学生間だけでなく現地住民やホストファミリーと調査・研究の場面だけでなく、一日を通して交流する機会も持つことができました。日本・タイそれぞれの学生は、SNSを通して帰国後も交流が続いています。

異文化での演習、英語やタイ語でのコミュニケーション、自身の専門外のテーマへの取り組みなど、普段の大学での研究とは違う状況に困難を感じる場面もありましたが、タイの大学や村人の協力に支えられ、演習を終えることができました。今回、様々な壁にぶつかりもがいた体験が、帰国後自らの専門へと戻った時に大きな力となることを期待しています。

◆演習開始、村での集合写真



◆ディスカッション風景2



◆液肥づくりを見学



◆窓の外には水牛の群が



◆ディスカッション風景



◆軒先でのインタビュー調査



◆文化交流会でのダンス披露



◆フィールドワーク終了、全員で記念写真



◆プロモーションビデオ作成風景



◆最終発表会

